

マクドナルドが伝道に成功した今一つの重要な理由は、彼が「東のベルツカ西のマクドナルドか」といわれるほどの名医として、静岡で評判が高かったことである。事実、彼は徳川家や鍋島家によく往診した——そのこと自体が静岡市民の信頼をかちとるのに充分であった——のみならず、開設されたばかりの静岡病院の顧問医として、新しい西洋医学の指導と診療に寄与すること大であった。彼は、宣教師としての仕事と、英語教師としての仕事と、医者としての仕事の時間の配分に苦慮しなければならなかった。一応開診時間はもうけていたものの、病人は昼夜を問わず押しかけてきた。マクドナルドは貧しい患者には無料で診療し、多くの人命を救った。そんなわけで、最初「耶穌」は嫌いでも、病気を治してほしさにマクドナルドのもとに来た患者のなかからも、しまいにはキリスト教徒に転向した者も少くなかった。

(五) 平岩、山路、高木、加藤らのこと

プロテスタント宣教にふれることなく、明治精神史を語ることは出来ない。そして平岩愼保は、新島襄、内村鑑三、植村正久、小崎弘道、横井時雄、海老名弾正、本多庸一らと共に、その宣教に活躍した偉大な群像の一人であった。

奇しくも平岩は、歴代の切支丹宗門改同心（幕府のキリスト教取締役）の息子として生れたが、東京帝国大学の前身である大学三学部で学ぶかたわら、中村正直の「同人社」に通い、ジョージ・カックランに導かれてクリスチャンとなった。平岩はカックランとの出逢いを、カックランの「学殖の深きに感服し、……君子

然たる徳風に感化せられて」カックランの居住する「同人社」に通うようになった、と述懐している。（『平岩愼保伝』）彼は、一八八一年に、静岡教会の山中笑、アメリカ系メソヂストの本多庸一と共に按手礼を受けて、日本メソヂスト教会最初の邦人教職となった。以来平岩は、日本の各地で教会の創設や伝道に献身し、東洋英和学校神学部教授兼同学校総理となり、一九〇五（明治三八）年には、カナダのビクトリア大学より神学博士の学位を贈られた。一九一一年には関西学院長に選挙されたが、本多庸一の急逝によ

ジョージ・カックラン



り、日本メソヂスト教会第二代会長として、その発展に貢献した。

この平岩から静岡教会で受洗した者のなかに、山路愛山、高木壬太郎もいた。平岩がマクドナルド、山中笑牧師のあとをうけて静岡教会へ赴任したのは、一八八四年のことである。彼はそれ以前に、『六合雑誌』に「安井息軒先生の辯妄を辯ず」と題する論文を掲載して、息軒のキリスト教批判に反駁したことがあった。その頃、山路、高木らは静岡にいたが、この事件を覚えていて、平岩が静岡教会の牧師としてやって来たことあって、「有

名な息軒先生を批判するとは、けしからん」「ナマイキだ」というわけで、敵愾心をむきだしにして押しかけていった。ところが彼等は逆に平岩の説教に感化を受け、英語の聖書講義を聞くうち次第にキリスト教に興味を抱くようになり、やがて信徒となるに至った。（『静岡教会六拾年史』）

山路愛山はのちに明治期を代表する史論家、評論家の一人となった。多数の著書のなかでも、『基督教評論』『現代金権史』『足利尊氏』などは特に傑作である。高木壬太郎は、その後、東京の築地教会や本郷中央会堂で伝道に専念し、明治キリスト教会最大の遺産の一つといわれる『基督教大辞典』を完成した。また、一九一三（大正二）年には、青山学院長に就任し、その発展に大いに貢献したほか、その人格と博識をもって、多くの学院生に深い感化を残した。

日露戦争（一九〇四—一五）前後に、内村鑑三や幸徳秋水らが反戦、非戦の運動を開始するよりも十数年も早く、一八八九年十一月、北村透谷と協力して日本平和会を創立した加藤万治もまた静岡教会のメンバーであった。加藤と北村は機関誌『平和』を刊行して、日本に絶対平和主義を確立することを目指した。しかも彼らが運動を起す直接の動機となったのは、その年の夏、普連土派の宣教師とマクドナルドとイービー（Charles S. Eby, 1845-1926）カックランとマクドナルドのあとカナダからやってきて、彼らと同じく大いに活躍したメソヂスト宣教師が主催した世界平和に関する演説会であった。したがってカナダ・メソヂスト・ミッションは、日本に平和運動の黎明をも

たらずのにも、大きな貢献をしたことになる。

横井時雄は、アメリカ人ジェーンズ指導下の熊本バンドの出身で、新島襄の同志社で教育を受けた人であるが、その間一時、開成学校（東京帝国大学の前身）で学んでおり、ジョージ・カックランから受洗して、キリスト教徒となった。

(六) 女子教育への寄与

カックランが東京小石川にある「同人社」（小石川バンドともいう）に、マクドナルドが静岡に蒔いたカナダ・メソヂスト伝道の種子は、その後多数の後継者を得てすく／＼と成長し、牛込教会、麻布教会、沼津教会、甲府教会へと枝をはりめぐらしていった。そしてやがてカナダ・メソヂスト伝道は、東京、静岡、山梨、長野、北陸、関西一円に拡大されていったのである。それにつれてカナダからの宣教師の数も増し、明治末期にはその数延百数十名にも達していた。

このほか、カナダ・メソヂストは、日本の慈善事業や近代教育、特に女子教育の発展にも寄与すること大であった。東京の六本木にあり、今もユニークな女子教育をつづけている東洋英和女学院や、その姉妹校である静岡英和女学校、山梨英和女学校は、カナダ・メソヂストが創設したものであり、それらには多くの婦人宣教師や宣教師夫人が貢献してきた。とりわけこれらの学校が、一般に大都市以外で女子教育がまだ普及していなかった時代に果たした役割は大きい。また、男子校として出発した東洋英和学校は解体したもの、その普通科は有名な麻布中学へと発展し、今も多くの学生を集めて